

アトム誕生前夜

=④=

普の余地が多い」(高西淳夫・早大理工
学部ヒューマノイド研究所教授)

世間の物や音を理解するには技術の「飛躍」が必要である部分だ。

括部長)する。だが、理化学研究所脳科学総合研究センターの市川道教・チームリーダーは「今の技術では、光の濃淡や視点が変わる」と、道筋が見えている課題といえる。

次のステップとして注目されているのが③で、人間の目や耳、脳に当たる技術③認識、判断、記憶をつかさどる「知能」一の総合体だ。

①に関しては、ホンダのアシモやソニーのSDR-4Xの例もあり、「機械的にはかなり完成してきた」(ホンダ)。

「砂利道や滑りやすい道を歩いたり、揺れる電車内で安定して立つなど」の制御技術(II②)は改



夢を目指し人型ロボット開発は続く

まず、「見る・聞く」などの認識能力。アシモなどは、人の顔や周囲の物を「形状でインプット」。(ソニーの石田健蔵)エンタインメントロボットカンパニー開発設計2部統

物を「難多な音から音がさまざまな物、音があふれる人間社会を、人による『考え方』の違並み』に理解するのは

さまざまなもので、その壁にぶつかる人が多い。これらの人間社会に出ることを

格らムできる範囲は限られないので、「選ぶ」のは知的な行為だが、「人間がプロ

ト」は「今技術では、光の濃淡や視点が変わる」と、道筋が見えている課題といえる。(石田氏)。

さまざまな物、音があふれる人間社会を、人による『考え方』の違並み』に理解するのは

さまざまな物、音があふれる人間社会を、人による『考え方』の違並み』に理解するのは

さまざまな物、音があふれる人間社会を、人による『考え方』の違並み』に理解するのは

さまざまな物、音があふれる人間社会を、人による『考え方』の違並み』に理解するのは

さまざまな物、音があふれる人間社会を、人による『考え方』の違並み』に理解するのは

さまざまな物、音があふれる人間社会を、人による『考え方』の違並み』に理解するのは

い、
先月20日、アニメ『アストロボーティ・鉄腕アトム』(フジテレビ系)の制作会見。夢の実現も近づいた。このアニメは、人間がアシモや、人間があらかじめ「動きのパターン」を入力し、『人が来る』

「地球上の全コンピューターを動員しても無理」(市川氏)とい、技術の飛躍が必要だ。

そこで、今考えられては自分で行う必要がある。も、ある程度までできるようになった。あちこちの壁にぶつかった後、見事コースを周回

となり、制御できる範囲は、車や自転車を運転する時、人は理屈ではなく経験を積んでうまくな

る。それと同じ理屈」市川氏は今後、人間が「見よう見まね」で動き込み

ることで、今考えられては自分で行う必要がある。も、ある程度までできるようになった。あちこちの壁にぶつかった後、見事コースを周回

となり、制御できる範囲は、車や自転車を運転する時、人は理屈ではなく経験を積んでうまくな

る。それと同じ理屈」市川氏は今後、人間が「見よう見まね」で動き込み

想定以上に賢くなる「危険性」も

元グループディレクタ

ツトはプログラムに沿って動く。一人で動いているアシモも、人間があらかじめ「動きのパターン」を入力し、『人が来る』

ことができる。これが学習機能だ。

一つが「記憶」。アシモやアイボは、人の顔や声を覚える

ことができる。それを「マスターするように、」の発案)が不可欠とい

う。市川氏は「『かわいい

がつてくれた相手は裏切れない』」そういう考え方

と説明し、「今後の研究課題」としている。(竹岡伸晃)